

みやぎの木づくり運動 みやぎ材利用のススメ

＜みやぎ材活用事例集＞ VOL.11



東松島市立宮野森小学校

東日本大震災により移転地として高台に造成された新しい街区の里山と寄り添う敷地に建設された、宮城県としては初となる校舎、屋内運動場共に木造の小学校です。

約5千本の無垢材を使用しており、木のぬくもりと香りに包まれ木質感あふれた施設空間となっています。

みやぎの木づくり運動

県内各地では、かつて盛んに植えられたスギなどの造林木が伐採の時期を迎えており、住宅資材や合板、製紙原料として利用されています。

一方、私たちの身近なところでも「県産材を使う」ことで、森林の手入れが進み、「水源のかん養」や「自然災害の防止」、「CO₂の吸収・地球温暖化の防止」といった機能が増進して、豊かな環境の形成につながっていきます。このため宮城県では、市町村や関係団体、企業等と広く連携し、森林・林業・木材の情報提供や、イベント開催を通して県産材の利用を呼びかける「みやぎの木づくり運動」を展開しています。



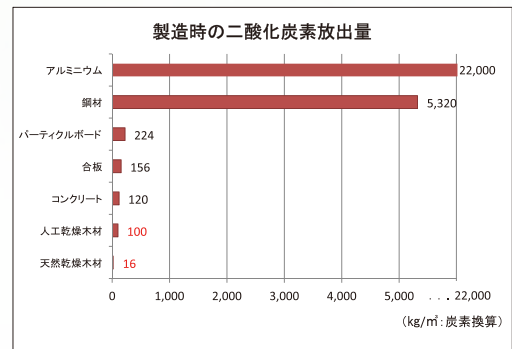
県産材を利用する意義

①地球温暖化防止などの環境保全に貢献できる

樹木は、光合成によって大気中の二酸化炭素を取り込み、炭素として貯蔵しています。

木材を住宅などに使用すると、森林が吸収した二酸化炭素が長期間にわたり固定され、大気中の二酸化炭素の低減に繋がります。

また、木材は鉄やコンクリートなどの資材に比べて製造や加工に要するエネルギーが少ないため、二酸化炭素の排出量を削減することができます。

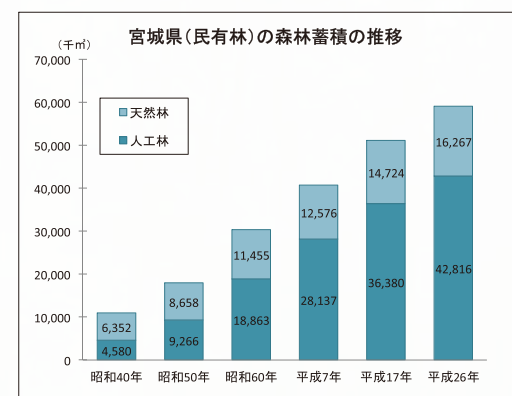


②林業振興や森林整備が促進される

宮城県内の森林蓄積は、昭和40年当時から約5倍に増加しています。また、森林は年間約140万m³成長しています。

一方、木材として利用される量は年間約50万m³前後にとどまっており、多くの森林資源が収穫期を迎えているにもかかわらず、十分に利用されていない状況にあります。

「植える→育てる→使う→植える」という森林整備と木材利用のサイクルを維持することにより、森林の保全・利用、水源のかん養などの公益的な機能が発揮されます。



③健康で快適な環境の空間がえられる

木材は断熱性に優れ、ぬくもりがあります。また、湿度を調節する働きがあり、乾燥のしすぎや高い湿度、結露などを抑えます。



みやぎの木づくり運動シンボルマーク

みやぎの「M」をモチーフに、水と緑に恵まれた豊かな県土から生まれた県産材を利用した木製品をアピールする県民の姿がデザインされています。



～身近なところから県産材を使おう～

○「宮城県産材利用推進に関する協定」締結

県は平成28年10月31日に、大手家具メーカーの株式会社イトーキ、宮城県林業振興協会と、「宮城県産材利用推進に関する協定」を締結しました。

県と株式会社イトーキは、これまで東日本大震災による被災木を原材料とした家具の製作をはじめ、宮城県産材を活用した家具の開発及び普及促進に取り組んできました。県では、今後、この取組をさらに飛躍させていくため、本協定に基づき、本取組の周知・PRを行い、県産材利用拡大に向けた林業振興施策を推進していきます。また、株式会社イトーキは、全国の製造・販売ネットワークを活用して、県産材オフィス家具の製造及び販売を推進していきます。さらに宮城県林業振興協会は、木材利用の意義の普及啓発に努め、県産材利用の意識を醸成していきます。本協定の締結により、3者が協働して県内外の民間企業や公共施設への県産材オフィス家具の販売推進を通じて、県産材の利用拡大及び地域林業の発展に寄与していきます。



○県産材を活用した家具等の普及

株式会社イトーキは地域材の新規用途開発や利用拡大に取り組んでおり、県産材を活用した家具が県内の公共施設に導入されるなど、宮城県産材を使用した家具や内装のPRを行い、宮城県の林業振興に貢献しています。



木の香るおもてなし普及促進事業 (みやぎ環境税活用事業)

多くの人が目にする施設に県産材を使用すると、木の良さやぬくもりを体感する機会が増えるほか、二酸化炭素の固定など木の持つ様々な効果について広くPRすることができます。そのため、県では、店舗・病院・福祉施設など、県民の方々が利用する民間施設の内装等の木質化（既設建物の改修を含む）、木製品の導入に当たり、一定以上の県産材を使用する場合、経費の一部を助成しています。

※最新の事業内容等、詳しくは宮城県林業振興課（裏表紙）までお問い合わせください。

補助事業の活用事例

○内装木質化等

◆株式会社リツワ 居宅介護支援事業所(栗原市)



○木製品の導入

◆J R 仙台駅(仙台市青葉区)



木製棚の導入

○木製品の導入

◆国立大学法人東北大学(仙台市青葉区)

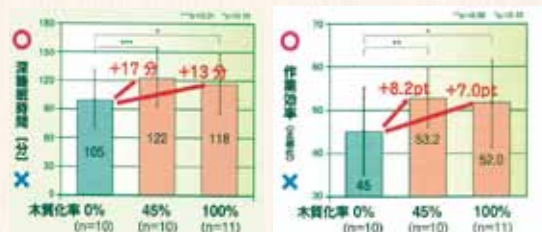


木製テーブル, 椅子の導入

★内装木質化の効果

寝室の内装に木を使うことで熟睡時間が増加し、睡眠翌日の作業効率もUP!

内装に木材を0%、45%、100%使った部屋で実際に寝てもらい、睡眠の質にどのような影響が出るのかを調査したところ、部屋の内装に木材を使うことで、熟睡時間が有意に増加しました。また、翌日に、キーボードからの入力作業をしてもらった結果、内装に木材を使った部屋で寝た方の翌日の作業効率が上昇するというデータも確認されました。



出典：慶應義塾大学理工学部 伊香賀俊治研究室の実験・実測データ

県内における木造公共施設の事例

利府三小児童クラブ

特 徴 児童だけでなく、地域住民との交流を提供する木のぬくもりとやすらぎに満ちた空間となっています。

事業者 利府町

所在地 利府町森郷字後楽東1番地5

構造 木造2階建

延床面積 233.51㎡

木材使用量 45.85㎡(うち県産材29.30㎡)

完成年月 平成28年1月



村田町福祉センター

特 徴 利用者が幅広い活動を行えるスペースを設け、高齢者等の多様なふれあいを育む施設となっています。

事業者 村田町

所在地 村田町大字村田字大槻下5番地

構造 木造平屋建

延床面積 660.83㎡

木材使用量 90.7㎡(うち県産材70.0㎡)

完成年月 平成28年3月



西原集会所

特 徴 県産材を活用し、地域住民にやさしく温かみのある施設となっています。

事業者 大河原町

所在地 大河原町大谷字西原前167番地15

構造 木造平屋建

延床面積 187.15㎡

木材使用量 41.72㎡(うち県産材18.98㎡)

完成年月 平成28年3月



持続可能な森林管理へ ～FSC森林認証～

FSC森林認証とは、NGOである森林管理協議会（Forest Stewardship Council）が作成した基準に照らし森林が適性に管理されているかを「審査」・「認証」する国際的な制度のことで、

適切な森林管理が行われていることを認証する「森林管理の認証（FM認証）」と森林管理の認証を受けた森林からの木材・木材製品であることを認証する「加工・流通過程の管理の認証（CoC認証）」、新規で建設・製造されるプロジェクト（建築物・土木構造物・イベントステージなど）そのものを認証する「プロジェクト認証」の3種類があります。



宮城県内における動き

○FSC認証の取得

南三陸森林管理協議会は、平成27年10月、国際的な森林認証を行う団体である森林管理協議会（FSC）による県内初となる「森林管理の認証（FM認証）」を取得しました。また、この「森林管理の認証（FM認証）」と並行し、丸平木材株式会社（南三陸町）では、「加工・流通過程の管理の認証（CoC認証）」を取得しました。

この取組により生産された認証材は、東日本大震災からの復興を国際的にPRできる製品として期待されています。



○南三陸町役場の建設

南三陸町では、東日本大震災で被災した南三陸町役場と歌津総合支所を公共施設では初となるプロジェクト認証を取得し、再建しています。平成29年夏頃の完成予定となっています。



木材利用の新たな方向性 ～ CLT の開発・普及に向けた取組～

CLT (Cross Laminated Timber, 直交集成板) とは、ひき板を繊維方向が直交するように積層接着した重厚なパネルのことです。

コンクリートよりも軽量なため建物全体の重量が軽くなることや、あらかじめ工場で CLT 加工した製品を現場に搬入するため施工が容易であり、工期が短縮されるなどの利点があります。また、厚みや幅があるため断熱性・耐火性・強度が高く、欧米ではマンションや商業施設などの中高層建築物等の壁や床として普及しています。

そのため、日本においても、新たな木材需要を生み出す製品として注目されています。

宮城県内における動き

○「宮城県 CLT 等普及推進協議会」の設立

木造建築に係わる産業の連携を促進し、CLTや県産材等の普及と地域産業の活性化、成長産業化等を目的として、建設・木材産業に関わる業界団体により、平成28年2月2日に「宮城県CLT等普及推進協議会」が設立されました。一般の方にPRを行う他、CLT工法普及のための勉強会の開催、研究等を行っています。



○県産 CLT の実用化に向けた取組

◆スギCLTによる公開実験(東北大学)

CLT工法普及等のため、東北大学でCLT耐力壁水平加力実験が行われました。



◆CLT工法を使用した民間施設

ナイス株式会社の仙台物流センターCLT事務所棟 県内初のCLT工法を採用した建物であるだけでなく、全国初のCLTとRCの平面混構造で建築されています。



木造の民間集客施設例

(女川町シーパルピア女川 地元市場ハマテラス)



● お問い合わせ先 ●

宮城県 農林水産部 林業振興課 みやぎ材流通推進班

〒980-8570宮城県仙台市青葉区本町3-8-1

電話：022-211-2912

FAX：022-211-2919

E-mail：rinsinf@pref.miyagi.jp

ホームページ：http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/ringyo-sk



この印刷物は大豆油インキを使用し印刷されています。
この「みやぎ材利用のススメ」は、2,400部作成し1部あたりの単価は46.89円です。
印刷に伴い排出された温室効果ガスは、宮城県内の森林整備により創出されたJ-VERクレジットによりカーボンオフセットされています。

平成29年3月作成